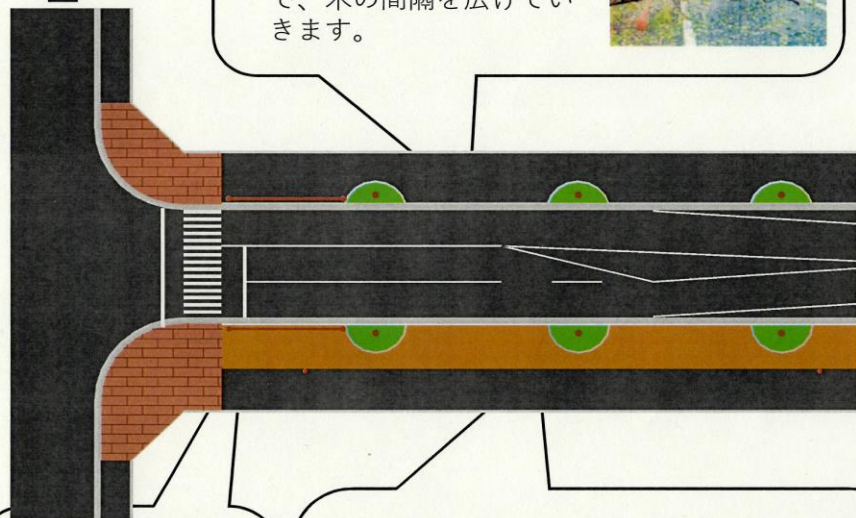


これからの街路樹の取り組みについて

沿道景観に彩りや季節感をもたらす街路樹ですが、近年では大木化や老朽化が進む中、枝葉が標識等を覆い隠したり、根上りによる段差等の発生、台風の倒木による通行障害等、市民生活への影響も懸念されています。

このため、樹木の適切な維持管理を続けていくため、新たな取り組みが必要な転換期を向かえています。そこで児童の通行も多いあかしあ台小学校前交差点をモデル地区として、これからの取り組みを考えていきます。

あかしあ台
小学校



台風で木が倒れないか心配...

☞密集した枝葉が壁となり風の逃げ道無くし、倒木の危険がありますので、木の間隔を広げていきます。



信号や標識が見えにくい...

☞木や枝葉に標識や交差点の人が隠され確認が遅れる場合がありますので、交差点の見通しをよくします。

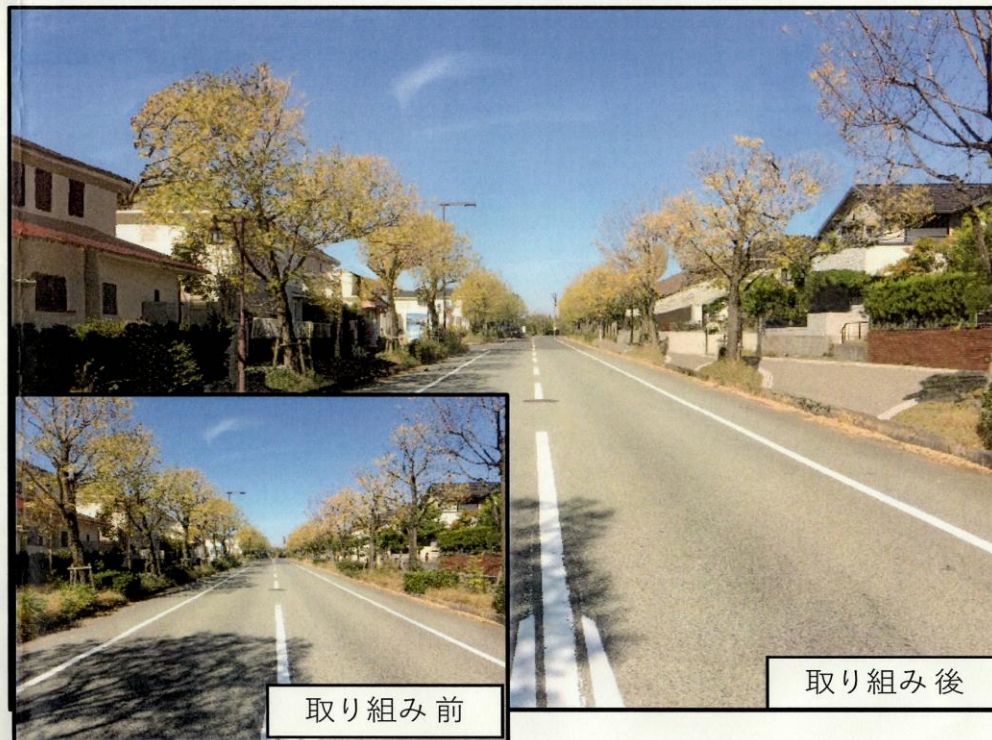
段差があって歩きにくい...

☞木の根が舗装面を突き上げらせることで段差が生じていますので、植樹マスを改良し、根がマスの外に出ないようにします。



取り組みについて

- 交差点から概ね10mの範囲にある木を除去し、見通しを良くします。
- 高木の街路樹を間引きし約16m間隔とします。また、植樹マスを整備し、根がマスの外に伸びない対策をします。
- 複数列配置される木は除去し、車いすの方も安心して通行できる幅を確保します。
- 幅員の広い歩道は、有効幅を広げ舗装の一部をカラー着色しジョギングなどをしやすくします。



取り組み前

取り組み後